



三重県立四日市高等学校同窓会
公式ホームページ

<http://www.pcs.ne.jp/~shiko/>

同窓会報

No.70

編集発行

三重県立
四日市高等学校
同窓会

四日市市茂福65
TEL <059> 365-3631

印刷

（株）東海フォトデザインシステム



「日本のこころ」を取り戻そう

同窓会長 熊澤 誠一郎

（四高29年度卒）

平素は、四高同窓会に対して
格段のご協力をいただき厚く御
礼申し上げます。

さて、昨年の我が国の状況を
振り返ると、混乱の一語につき
る。政治は党利党略に明け暮れ、
この国難の時に何の打つ手もな
いありさま。加えて、経済は世
界的な不況と相まって、デフレ、
円高で倒産企業も続出した。年
金をはじめ種々の社会保障や福
祉の実情も改革の目途も立たな
い状況でした。「決められない
政治」「決められない政治」と言
うより「決めよう」としない政治
の感さえる政治家に落胆しま
した。日本は一体どうなってい
るのだろうか？と憂慮した。政治
や経済がいかに弱体化してい
る。

と、いかに時代が変わろうとも、
その根底にあるものは人間であ
る。その変化や移り変りに対応
していけるその人間を育ててい
くことが、何より大切なことだ
とあるという。これを痛切に感じ
させられた一年であった。

うべき道筋、道理をたつと「義
を重んじるこころ」。これらの
心のあり方をしっかりと持ち、
日本のこころをたて直すことが
出来れば、かつてのような世界
から尊敬される民族になれるの
ではないでしょうか。欧米流の
「理」一辺倒の考えではなく、
「情」を忘れずにものごとを判
断する姿勢を持つことも大切で
しょう。ルールで禁止されてい
ないからといって、きわどいこ
とも平然と行い儲ければそれで
よしとする風潮をすて、その時
代に合った「日本のこころ」を
立て直すことにより自信と誇り
を持ち、秩序正しく堂々と歩ん
でいくことが重要なことではな
いでしょうか。

も、究極は人間の問題ではない
だろうか。かかる意味から、四
高同窓会諸兄、現役生徒諸君が、
長年培われてきた、四高の伝統
の上に立つて、一人ひとりが、
自覚と自信を持って、一層の努
力と精進を重ねることが大切で
あると思います。大げさな言い
方ですが、戦後六十数年、ここ
まで劣化してきたこの国のつく
り直しは、一朝一夕にはいかず、
かなりの時間がかかると思われ
ます。戦後ずっと経済成長を追
求し続け、物質的な豊かさに価
値観を置いてきたが、内面的な
「日本のこころ」をしつかりと
確立し直すことをしなければ、
この国のつくり直しは期待でき
ないのではないのでしょうか。即
ち、寛容、思いやり、おかげさ
まという「和の精神」。他を敬
い尊敬の念を持つ「礼節を尊ぶ
こころ」。誠実、信頼、不正を
恥じる「誠のこころ」。人の行

本校の生徒は、同級生と点数
の比べ合いをしません。成績が
良いから相手を高く評価するこ
と、成績が悪いから自分を卑下
するというような気持ちになり
ません。あくまでも「自己実現」
のために勉強しています。目指
す理想は「学級、学年、学校全
体の集団に自然と学び、教え合
う健全な自発性や親和性を生み
出す」という考えにもとづいて

います。難関大学合格もその結
果に過ぎません。理想の学校の
生徒は心豊かに育ちます。少子
高齢化が進み、我が国の国力の
維持、向上のためには、生徒に
社会の一員としてよりよい生活
や人間関係を築こうとする自主
的、実践的な態度を育てると
もに、自己の在り方、生き方に
ついての考えを深め、自己を生
かす能力を養わなければなりま
せん。今年の全校人権討論会で
は、生徒から「一日一善」運動
を限定した期間ではなく一年中
取り組みたい、との強い要望が
ありました。自分の家族に、友
だちに、身近な人にそして見知
らぬ人に「みんなでやろう」と
話し合い、大きな拍手のもと討
論会が幕を下ろしました。確実
に心の教育が育っています。そ
んな四高生に未来の日本の明る
さを確信しました。



心の教育の成果

学校長 水谷 明弘

同窓会の皆様におかれまして
は、平素より母校の教育全般に
わたりご支援ご協力賜りまして
厚くお礼申し上げます。

今年度は三重県の小中学生の学
力向上元年となり、県をあげて
様々な取り組みがなされていま
す。全国学力学習状況調査結果
から三重県が全国順位で下位グ
ループであり低迷していること
によるものです。この調査結果
を取り組みについて、その是非
を語ることは避けます。なぜな
らその背景に競争原理が働いて
いるからです。

「宇宙アラカルト」
終了後・抽選会のあと記念撮影
・喫茶室にてティー・パーティー
（無料）

＜平成25年度総会のご案内＞

平成25年度総会を下記の通り開催いた
します。会員の皆様におかれましては、お
誘い合わせの上、多数ご参加くださいませ
ようご案内申し上げます。

○日 時
平成25年6月1日(土)
13時30分受付 14時00分開会

○場 所
四日市市総合会館8階 視聴覚室

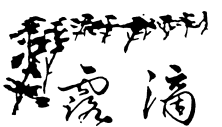
○記念講演（総会後）
〈講師〉
JAXA 副理事長
樋口 清司氏（四高39年度卒）

〈演題〉
「宇宙アラカルト」

終了後・抽選会のあと記念撮影
・喫茶室にてティー・パーティー
（無料）

○付 記
・会費期限切れの方には、振込用紙を同封いた
しました。会費納入にご協力下さい。
・講演につきましては、一般に公開しておりま
す。お知り合いで、ご興味のあります方には、
ご案内下さい。

○問合せ
四日市高校同窓会館
TEL・FAX 059-365-3631
Eメールアドレス
sikoukai@m2.cty-net.ne.jp



年々歳々、十
四歳のほとり
り、変わりゆく母
校の姿を眺めな
がら佇む四日市
高校同窓会館。
母校創立70周年
を記念して、昭和44年、本校卒
業の先輩諸氏の努力により建立
された。早や半世紀近くの年月
が流れている。本会報も昭和30
年に創刊、本号で70号の節目を
迎えました。70号記念として、
紙面の大改革をいたしました。
お気付になられたでしょうか。
（1ページ、8ページのカラー
印刷を含めて）▼創刊以来、時
代の移り変わりは激しく、アナロ
グよりデジタル一辺倒の時代に
突入している。少子高齢化の時
代に入り、私たち同窓会員も高
齢者が増えつつあります。本
会報創刊号（昭和30年）の活字
ポイント（文字の大きさ）は、
45号まで「三重県立四日市高等学校」
（8ポイント）、46号より69号ま
で「三重県立四日市高等学校」
（9ポイント）、本70号は「三重
県立四日市高等学校」（10ポイ
ント）とポイント数を大きくし
ました。▼投稿者の原稿字数は
少なくなりましたが、行間に含
まれた意味を読み取るべく、含
蓄のある文章が多くなり、編集
係は大変喜んでおります。日進
月歩のデジタル時代、ますます
小さい文字を見つづけ、視力の
弱体化、高齢化は進みつつある
でしょう。▼本会報も時代と共
に、卒業生諸氏の内容豊富な記
事を会員の皆さまに、適確に伝
えるべく進化してゆくことを念
じております。

（鈴木田）



高中・四女・北女卒業生



四高昭和25～29年度卒業生



四高昭和30年度卒業生



四高昭和31年度以降卒業生

平成24年度総会は、6月2日（土）、四日市総合会館にて124人の参加を得て開催されました。

最初に熊澤会長が、文武両面において優秀な現役生が育っている点に触れ、今こそ卒業生の縦横のつながりを固め、会としての援助を行いたいと述べられました。それを受けて水谷校長は、同窓会からの支援へのお礼と共に、学校の現状報告、また、夏制服の襟に八陵星をつけることを提案されたこと等を報告なさいました。

その後、議事審議、記念講演、記念撮影、抽選会、ティーパーティと、会はずつがなく進行了ました。

- 議 事
- 総会で審議された議案は次の通りです。
- 第1号議案
平成23年度事業報告
 - 第2号議案
平成23年度収支決算
監査報告
 - 第3号議案
平成24年度事業計画案
 - 第4号議案
平成24年度予算案
- 以上の議案について慎重に審議された結果、全会一致で承認されました。

記念講演

本年度は、かつて甲子園で優勝時に投手として活躍された元巨人軍の高橋正勝氏にお願いし、「故・水谷貞雄監督と甲子園初優勝」

水谷貞雄監督と
甲子園初優勝
高橋正勝氏（四高30年度卒）

記念講演



財団法人四高会 平成23年度 収支決算書
(平成23年 4月 1日～平成24年 3月31日)

〔収入の部〕			単位：円	
勘定科目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額
寄付金収入		同窓会より	300,000	300,000
雑 収 入		会館使用料	59,000	100,000
		受取利息など	6,463	3,019
前期繰越金			936,981	936,981
合 計			1,302,444	1,340,000
〔支出の部〕			単位：円	
勘定科目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額
管 理 費			710,917	920,000
	事 務 費		119,525	150,000
	会館修理費		184,170	100,000
	清 掃 費	環境整備等	0	150,000
	保 険 費	火災保険料	23,510	20,000
	光熱給水費	電気、水道、ガス代	383,712	500,000
事 業 費		会議、講演	209,909	240,000
法人住民税		県税・市税	75,600	80,000
予 備 費			0	100,000
合 計			996,426	1,340,000

(次期繰越金) 百五銀行富田駅前支店普通預金 306,018円		単位：円
23年度収入	1,302,444	
23年度支出	996,426	
差引残高	306,018	

四日市高校同窓会 平成23年度 収支決算書
(平成23年 4月 1日～平成24年 3月31日)

〔収入の部〕			単位：円	
項 目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額
同 窓 会 収 入			8,923,400	8,844,000
	入 会 金	全日制 1,800円×1,063人	1,913,400	1,944,000
	同 窓 会 費	終身 (20000) 335 6,700,000		
		10年 (10000) 1 10,000		
		5年 (5000) 3 15,000		
		3年 (3000) 3 9,000		
		2年 (2000) 2 4,000		
		1年 (1000) 272 272,000	7,010,000	6,900,000
雑 収 入		利子、その他	11,213	13,398
繰 越 金			1,412,602	1,412,602
合 計			10,347,215	10,270,000
〔支出の部〕			単位：円	
項 目	細 目	摘 要	決 算 額	予 算 額
運 営 費			1,371,719	2,000,000
	給 与	給料	1,174,000	1,500,000
	事 務 費	印刷、事務用品等	53,498	100,000
	通 信 費	電話、郵便、インターネット関連費など	144,221	400,000
会 議 費			203,218	420,000
	総 理 事 会	会場費、懇親会費、案内状	128,060	250,000
	常 任 理 事 会	会場費、会議費、案内状	61,338	150,000
		会議費	13,820	20,000
事 業 費			1,258,202	1,450,000
	報 告 書	会報印刷及び発送費	772,602	950,000
	母 校 ク ラ ブ	母校クラブへ	485,600	500,000
四 高 会 拠 出 金		(財)四高会寄付金	300,000	300,000
積 立 金			5,000,000	5,000,000
予 備 費		供花等	11,130	1,100,000
合 計			8,144,269	10,270,000

百五銀行富田駅前支店普通預金 単位：円		特別会計積立金(百五銀行富田駅前支店定期預金) 単位：円	
平成23年度収入	10,347,215	前 年 度 末	28,559,088
平成23年度支出	8,144,269	今年度積立金	5,000,000
次年度繰越金	2,202,946	利 子	6,876
		今 年 度 末	33,565,964

お悼み



川合一郎氏
(富中41回卒)

永年にわたり、同窓会
常任理事として会の発展
のためにご尽力ください
ました、富中41回卒業の
川合一郎氏が平成24年11
月11日ご逝去されました
(享年85才)。
謹んでご冥福をお祈り
いたします。

役員		常任理事	
会長	熊澤誠一郎	山本	將子
副会長	鈴木田俊二	服部	幸男
	西脇 壽郎	瀬木	慧
	坂倉加代子	北川	利美
	伊藤 勘作	小津	博嗣
	中島 泰浩	進士	尚義
	杉本 雅俊	上野	公雄
	飯田 賢一	水谷	益彦
顧問	岡田 卓也	金子	和生
	小菅 弘正	長谷川	正統
	森田三重子	山下久	三造
書記	富田 常豊	青山	晶
会計	伊藤 成利	井村	正史
	高羅 英彦	森	公平
	大森 智之	黒木	誠
監査	奈須 庄平	名越	一大
	藤原 和彦		
	四高 54		
	四高 37		
	四高 62		
	四高 33		
	四高 31		
	四高 51		
	四高 42		
	学校長		
	北女 19		
	四女 42		
	富中 42		
	富中 40		
	教頭		
	四高 42		
	四高 36		
	四高 35		
	四高 32		
	四高 32		
	四高 28		
	四高 29		

第4回

四高銀城親睦ゴルフ大会

盛大に開催される

去る11月15日(木)、生憎の小雨まじりの中、恒例の第4回四高銀城親睦ゴルフ大会が115名のご参加により四日市カントリークラブで盛大に開催されました。

プレー終了後、午後3時半過ぎからクラブ2階のコンペルームで表彰式が行われました。

熊澤誠一郎同窓会長のご挨拶に続き男女別に表彰が行われましたが優勝者は次の方々でした。

- ◆女子の部
- 川村智子さん (50+48=19.2=78.8)
- ◆男子の部
- 片山重明さん (43+43=15.6=70.4)



男女優勝者と熊澤会長



懇談会会場

平成24年度会費納入者

(敬称略)

○終身会費(2万円)

伊藤望、伊藤雄紀、伊藤佑夏、岩寄光基、大野誠宜、大森一毅、勝木万祐子、川合拳人、川島和子、木全優貴、小林菜奈美、佐野真奈美、四方美希、菅沼祐太、杉山雄紀、鈴木智大、善久真帆、館奈央、館雅大、田中みなみ、田名瀬絢香、棚田莉紗、中原瞳、西山沙彩子、廣瀬文音、深田万佑子、別所香奈、堀田奈美、牧添遥、松田峻、松本明香里、森口若奈、阿部桃子、荒木勇貴、印南翔吾、大岩俊介、太田夕貴、岡本重門、片山裕太、葛山彩香、加藤玖実子、喜多嶋志帆子、木村知恵、小久江陽介、近藤玲央、澤美伶、嶋崎康平、城花苗、鈴木友海、竹内貴大、多田亜理沙、辻卓久、中橋風馬、野口侑里江、畑論紀裕、平川真紀、松田奈美、松本慎也、水野萌香、向井沙代子、山本鋼、渡部沙織、安藤さゆり、家木優太、伊藤宏毅、伊藤博典、梅山優奈、岡弘樹、川村遊、倉田夏実、小泉彩綾、小崎友里恵、後藤麻友、塩野雅也、世古将太郎、千田裕美子、田川奈美、館佳奈子、巽穂菜美、田中美咲、田中美侑、辻知広、中川詩帆、中川晴香、生川陽加里、早川雄也、日置葵、廣田杏珠、方田成美、松浦匠、南川顕吾、向原幸子、安田恵子、山下祐輝、山田朱里、青木奈緒子、市川結菜、伊藤清貴、伊藤幸祐、宇畑雄哉、太田隼人、大矢峻介、北川麻衣、郷すずな、近藤弘菜、佐藤雄登、神保康紀、杉浦菜保、鈴木健、竹中達、富澤沙季、中川光樹、中里優哉、中村綺更、西脇美伽、信田裕斗、服部楓、廣野史也、福田龍、福森まいみ、藤井詩穂、藤田敦子、藤本高志、星野佑輔、堀畑友見、水谷行善、森裕美子、矢田裕美子、山口裕之、山口佳起、吉本直哉、米田涉真、渡辺健太郎、浅野遼介、

伊藤厚稀、糸見明穂、今井陽亮、浦理香子、浦田築、江間稔起、加藤清香、河野祐輝、北村優季、小林まゆり、佐藤友美、佐野友亮、柴田侑人、鈴木干遥、多氣佑太郎、異貴章、中西綾、西村俊哉、長谷部一航、花井健人、日置仁美、藤井大輝、増本千明、三木悠矢、水谷慎之介、水谷卓矢、三谷冠、村上尚哉、山岸美保、山口達大、山中統吾、山本奈々代、和田啓祐、石田静馬、一木崇人、伊藤由、伊藤優志、井村文哉、岩松裕太、遠藤卓、大宮舞子、岡田朋大、荻田拓海、加藤友香子、川本稜、北原弘大、佐々木健吾、白井賢人、杉本遼介、首藤菜子、高山夕利奈、田中広太郎、田中宏明、谷本雅英、秦正太郎、坂勇太、藤井航平、古市奈緒子、松本菜摘、三木佑里佳、水谷永輔、水谷尚樹、宮野翔馬、森博啓、山上修平、李寿元、飯田侑里、生田久美子、伊藤恭章、小川真穂、門脇万里子、黒田大夢、澤木裕紀、杉本貴史、鈴木敦貴、鷺見隼人、田尻大敏、館優花、辻央流、東海翼、永川恭州、中村真奈、野呂俊介、畠山恭助、早川優衣、福田健人、松田明、松本利夫、水野浩樹、三林愛、宮崎和太、森祐太、保田知里、山口なるみ、鷺田満土香、赤松洋、浅野真未、安藤光希、筏井亮太、石川寛菜、石川結葵、伊藤大貴、伊藤美穂、伊藤優理子、岩阪拓馬、植田沙織、植松洗貴、内田裕介、大須賀詩乃、岡村健太、小田勇大、菊池直人、北口真生、桑原拓也、後藤萌、清水保乃華、下井涼平、杉野真穂、世古充樹、竹本嘉透、館高基、田部孝治、壺井翔太、中田朔海、原田朋美、樋尾衣津美、福野晴耶、福山遼大、藤本翔、松岡崇史、村井一真、森博紀、森万佑子、赤池俊希、荒川雄斗、荒木駿、石川由美子、伊藤沙樹、伊藤新、伊藤貴紀、伊藤里菜、岩崎未来、宇尾野瑞希、太田優里、大塚友紀子、岡輝、岡田佳奈、小澤敦揮、勝田遊五、

会費納入のお願い

北住友梨奈、小林愛、近藤里帆、佐藤優太、佐野允紀、鳥村麻生、田谷野義季、中村圭佑、福本七彩、藤井蓮、松浦朱莉、松谷広志、水谷美衣子、道浦舞、嶺川栞、三宅佑実、村元孝多、森いづみ、山崎古都、吉岡恵里奈、米岡裕矢、因田宏紀、佐久間裕之、伊藤幸雄、矢田亨、松川周矢、武田聖子

(平成24年12月現在)

○10年会費 (1万円) 2名

○5年会費 (5千円) 3名

○3年会費 (3千円) 1名

○2年会費 (2千円) 2名

○1年会費 (千円) 207名

会員の皆様、誠にありがとうございました。

同窓会の事業はすべて会費により運営されています。会報の送付なども、財政上の理由から会費を納めた方だけに限らせていただいております。納入がまだお済みでない場合には、是非お早めにお願ひ申し上げます。

- 納入金額
- 終身会費
- 2万円
- 毎年納入の場合
- 年会費
- 千円
- 納入方法
- ①郵便振替 口座番号
- 008201816367
- 三重県立四日市高校同窓会
- ※専用の振込用紙がありますのでご連絡下されば送付いたします。
- また同窓会HPよりダウンロードも可能です。
- ②現金書留
- 会館迄ご送金下さい。
- 《お問い合わせは》
- 四日市高校同窓会館まで
- 電話・メールにてご連絡下さい。



外国のあさがおの花

天 野 きみ子

（北女19回卒）

平成24年3月に友達が「外国のあさがおの苗を花屋さんで見つけたので買ってきました。」と言って二葉が出ている植木鉢を持ってきて下さいました。小学生の時一年生の担任の横山先生にあさがお種を二つ頂いた。家で育て花が咲くと毎朝いくつ咲いたか記録した時の事を思い出しました。しかし種ができないと聞いて「ふしぎだなあ。どうして増加させるのだろう。」と思いました。

二日後地面へ植えかえて、水

やりをはじめました。それから三日後びっくりしました。早やつるが出て、一本は近くのとゆへ首をつっこむ様子をしていました。こん後どうしたらよいのだろうかと思案をしましたが、よい方法は考えつかず次の日、様子を見ますと、ずっとずっと高いペランダのとゆの先まで首を出しているのです。成長の早さにびっくりしてしまいました。そして、何事にも成長の早さに差があるのだろうかと思いました。その後は私の知らないうち

心の中に花一輪

内 田 加代子

（四女42回卒）

きびしい冬の季節がくれば、次は暖かい春が訪れます。人生も同じように三つの坂があります。上り坂、下り坂、あとの一つは、まさか！この坂に出会ったとき、落ちついてあわてることなく全てを受け止め乗り越えてゆきたいと思っています。

私13歳のとき母を亡くし、40歳のとき連れ合いの住職とも死別、幸せうすき人生の始まりでありました。悲しむ暇もなく、すぐに京都の得度習礼所にて僧席を頂き、一人の僧侶として自坊に帰りました。

その後、多くの仏縁を頂き、仏さまのみ教えを聴聞すること

に手のひらを開いた位の大きな青い花のつぼみができ、次から次と競争して咲きました。私は毎日花の数を表につけようと思



潤させて頂くことであります。救われるはずのないお恥ずかしい私を（損取不捨）必ず救う、救わずしてはこの私は（不取正覚）仏の座にいてもたつてもおれぬと、立ちづめ呼びづめにしていて下さるアミダさま。報恩のお念仏申すのみであります。

いつも阿弥陀さまと二人づれ心の中に花一輪

注 来



富中の三先生を偲ぶ

山 田 正 興

（富中38回卒）

卒業してから70年、鹿児島・大阪・奈良・スエーデン・フランス・四国を転々、医育の末席に60年、今も兵庫でリハビリ学校にあつてタイ韓国と教育交流をしている。

このほど「人生を変えた名授業」（文春24年10月号）を読んで、「心を伝えよ」「考えることを教える」「感じたものを画け」などの言葉に、富中当時の名物先生を思い起こした。

スポーツや暗記の苦手な小生が高橋俊人先生に会って、唐詩人の酒や女の詩に感動し、丙丁

た国漢が忽ち甲になった。掃除当番で水を掛け合い、誤って先生にバケツの汚水を浴びせ、

増田清孝先生の数学にはよく

平身低頭、真っ白な背広を脱ぎ、そのままステコ姿で黙ってお

な先生がご自身の油絵具で油の溶き方で教えられるという、初めての経験が後に趣味にまでなった。またご郷里の美しい山に魅せられて、鹿児島島の七高造士館へ行く気にもなった。

このような先生方により、文学、理学、美学に目覚め、後には物理学者を親友にもち、物理を扱う医学への糸口になった。旧制高校の全寮生活や渡欧でドイツのギムナジウム、英国のカレッジ等の教育の深奥にふれ、知識と共に学ぶべき心の置き処の大切さや、知識の切り売りというクイズのような暗記テストの前に心を培うことの重要さを学んだ。旧学制以前の幕末、九州日田の広瀬淡窓塾から維新の人材が出たように、富中時代、多感なわれら中学生を遊ばせてくれた先生方もヒューマンな教育者として優れていたと今も思っている。

旅先にて

中 村 公 一

（四高35年度卒）



今、湯布院の亀の井別館の茶房天井敷敷にてグレゴリ讃美歌を聞きながら、モン・ユフのケーキを食べ、ダージリンの紅茶を飲んで

前よりは是非一度は行ってみたいと言っていた湯布院への訪れだ。

湯布院はこの町を一躍有名にした中谷健太郎の想いをよく表している。彼はこの町を「くらしと一体化した町づくり」「この町のしみ出る心地よさを大切にしたい」という。旅館のもてなしの心遣いやタクシーの運転士までそのことが行き渡っているように、笑顔と人柄の良さと

ゆとりを感じさせる町である。だからリピーターの多いのも頷ける。

この町で宿泊して感じたことは、俗にいう一流旅館は、もてなしの心はもちろんのこと、花鳥風月を感じさせるたたずまいが大切である。室内の調度品も重要な役目を担っているということだ。人は美しい自然との調和の中に、心の安らぎを感じ取るのではないかと思う。心豊かな気分を長く続けさせてくれるのが一流と言われる理由ではないかと思つた次第である。

旅はいろいろな発見があり面白いものだ。これからも楽しみたいと思つている。



バクダンかばんに 夢をつめて…

堀田 倫代

(四高50年度卒)

私の高校生時代を振り返りますと：「ほんつと、イケてなかったなー！」の一言です(笑)

縁の腐女子！ 学業面でも「燃え尽き症候群」で、当然成績は常に最低ラインをキープ！ 今思えば高校時代はわが人生の水

た。おかげで今はこの土地に誇りと深い愛着を感じています。現在は自宅の小さなアトリエで大好きな花を教えています。これから人生の花を咲かせようとしている女性たちが足を運んでくれるのを待ちます。彼女たちの背中をそっと押しながらいつも思っています。大丈夫！ きつと夢は叶うよ。そして、人生には何

でも、私は鞆に教科書やら辞書やら弁当やらをパンパンに詰め込み、おまけにニキビ面でおおよそ色気なんてものとは無

そんな私も、短大に進学して水河期からやっと春を迎え、短大卒業後はANAのキャビンアテンダントになることができました。そのへんは、落ちこぼれであつてもあたたかくご指導下さった先生方のおかげです。

三十代の頃は主婦をしながら地元のタウン誌「月刊Kureha」の編集スタッフとして北勢三重の魅力を探して駆け回りました。



12月30日に「あけまして おめでとーございます」

安達 尚郎

(四高47年度卒)

「あれから40年！」：私が四高を卒業して今年で40年です。高校時代は剣道部に所属していましたが、何年かたつうちに元部員との付き合いも年賀状の交換ぐらいになり、徐々に減って

年、原則12月30日が集合日になり、毎年数人が集まっています。当日、その年初めて会う人もいて、その時の挨拶が「あけましておめでとーございます」なのです。

忙しい年末に集まるため、参加者は各家庭の年末大掃除のノルマがあるようです。我が家は窓拭き。12月30日までに完了するという目標があると仕事がかどります。

そうした中、私が三十代の時に仕事で中国天津市に約一年滞在し、帰国後の年末にK先輩から、「集まらないか」とのお誘いを受け、私の前後の年代の人に声をかけ、10人ほどが12月30日に集まりました。それ以降26

話題は、三十代の頃は仕事や子どものこと。十数年前からは

人物



時刻表

加藤 道子

(四高62年度卒)

ほぼ20年ぶりに戻った四日市で、新しく必要になったのは「時刻表」である。

ホームに立ちさえすればいくらでも電車がやってくる街に住んでいたのに、時刻表を持つ必要がなかったのだ。

ということ、それはそれは便利などころでしたのよ、ほぼと自慢したいところだが、

そうはいかない。その街の電車はいつも満員で、しかも、よく止まるのである。風、雨、雷、

雪、地震、事故：あらゆる理由でほぼ毎日、どこかで止まる。止まった途端、人々は別ルート

に殺到、ホームには人があふれ、

改札すら通れないこともある。

もつとも、止まった電車に乗っていたのなら、数時間にわたって閉じ込められてしまうことも多いから、いちばん運が悪い。と

にかく、毎日、通勤のたびに「電車がとまりませんように！」なんて考えるのでは、ストレスいっぱいである。

近鉄富田駅で赤い電車をぼんやり待っていたいなかもんが、そんな街に長く耐えられるはず

もない。私は静かにその街を去った。定期入れには昔のように時刻表が鎮座することとなった。とても健全である。

ところで、四日市の多くの人は時刻表を持っていない。車に乗るからだ。だから、あの街の電車とそのストレスについて熱く語っても、「ふーん、そんな感じなんだ」と軽くかわされる。むしろ、私が運転免許証をもたないことがみんなの驚きを誘う。

もしかすると、時刻表なんて私だけが後生大事に持ち歩く過去の遺物なのかもしれないと思う、今日この頃である。



音楽でつながる

増山 美奈

(四高平成7年度卒)

昨年1月、高校時代の友達からメールをもらい、四日市市文化会館で行われるニューイヤークンサートに出かける機会がありました。高校生の時から音楽と関わり、学生時代は演奏会に出かける機会も割とありました。音楽と関わる機会も徐々に減り、今回は5年ぶりの演奏会でした。

会場に行く、中学から現在に至るまで、音楽の方面で出会った恩師や知人など、実に様々な人と出会い、近況等を報告しました。こういう場で再会し、うれしさや懐かしさを感じると共に、音楽でこんなにもたくさんの人とつながっていたことを実感させられました。

さて、久しぶりの演奏会の為、寝てしまわないかと心配になりました。ながらも、演奏が始まりました。この演奏会には、中学以来久しぶりに会う友人が出演してあり、とても楽しみにしていました。

改め「音楽って素敵だな」と思い返す一日となりました。中学以来の再会もでき、音楽は、私とたくさんの人をつないでくれています。

た。舞台上で演奏する友人を見て、「当たり前ですが」大人になったなあ。きれいになったなあ」と思いながら、演奏を聴いていました。曲を聴きながら、四高時代、この文化会館での文化祭で、合唱部の発表をしたことを思い出しました。合唱部の人数はそれほど多くはありませんでしたが、みんなでたくさん曲を練習し、楽しく演奏したことを懐かしく思いました。

リレー随想

〈第16回〉

希望に満ちて…
アズナブール

大 藏 日出子（四高29年度卒）



♪私が東京に出たのは二十才を過ぎた頃…。これは88才になる今日まで1000曲にのぼる作詞・作曲をした世界的な歌手シャルル・アズナブールの歌「希望に満ちて」の冒頭の一節です。彼は祖国アルメニアからパリに移り住んだ貧しい移民の一人として、数々の試練を克服し、歌手・俳優としても成功し現在の地位を礎いた、自叙伝ともいえる歌です。昨年四日市で開催の「ホームリサイタル」で、大都会パリを東京（訳詞）にオーバーラップして私もこれ迄の自分の人生として歌いあげました。

29期生としての四高の3年間は、受験校とはいえ、個々の個性を尊重した比類のない自由な校風の中で、私の目標は生涯を演劇人として生きたいと思っていました。高校演劇部活動で「そこまでやるの?」と疑問視される程の、桑原先生の徹底した本物志向の指導が、私の演劇に対するもの創りの姿勢、バックボーンが出来上りました。卒後、上京して俳優養成所の門を叩き難関突破、9期生として千田先生初め著名演劇人のもとで、俳優になるべく研鑽と訓練に励みました。日々アルバイトで得た僅かなお金も全て舞台に立つ為の学費に投入し、貧しさも夢と若さで生き抜いたら・ボエームの世界でした。その後、劇団四季に入り当時は舞台、TV、映画で食

べていける人はほんの一握りで、まだまだ女性に対する制約も多く、演劇活動もままならない状態が続きました。結婚し、一子を育てあげ、ようやく余裕が出来たその頃、シャンソンの殿堂と言われた「銀巴里」が閉鎖する事となり、「シャンソンの灯を絶やすな!」と東京ガスホールの館長さんが掲げた旗の元に、熱烈な同好者が集いシャンソン教室が開かれるという新聞記事に触発され私も参加しました。そこでの出会いが銀巴里で最後まで歌い、後にオペレッタの歌役者として喝采を浴びた故木月京子先生でした。

歌で人生の喜びや悲しみを語り、魂をゆさぶる感動を3分間のドラマとして表現する事に共感を覚えました。18年間シャンソンの教えを受けた事は、その後の私の生きる指針となりました。年を重ねて今ようやく判って来た歌。今だからこそ歌える曲がきっとある筈です。心待ちして下さる介護施設の方々への歌の訪問やチャリティ等の歌の奉仕活動で喜んで迎えて下さる笑顔は私の活力の源です。

アズナブールは「歌は人々を明日の希望へとつなぐ」と言っています。彼の様に私も^{かくしやく}響鑠として、人生を謳歌しつづけたいと思っています。

変わるもの、
変わらないもの

伊 藤 久美子

（四高平成12年度卒）

私たち2000年度卒業生はちょうど30歳を迎えました。私の実家は富田にあり、帰省の度に懐かしい母校を目にします。富田駅の可愛らしい鯨の駅舎や綺麗に整備されたロータリー、四高の向かいに新築の家が建ち並んでいる様子を見ると、卒業して10年以上という月日の流れに驚く反面、やはり少しずつ時代や街は変化しているようです。私たちが在学中、向かいにはスーパ―「アコレ」がありました。

私たち2000年度卒業生は、店内で流れていたアコレの歌、今でも歌えてしまいます。確か3年生のときに「ダイソー」になり、担任の山北先生に悪戯の域に入るプレゼントを買ったこともありました。些細な出来事ほど次々と蘇る、たくさんの思い出。今でも当時と変わらないうまま笑い合える友人達。四高で過ごした3年間は私の財産です。

の「再会」がありました。流行のSNS「フェイスブック」の中で、ですが、ネット上での「再会」とはいえ侮れず、仕事からプライベートまで様々な近況・変化が垣間見えてなかなか面白いものです。私自身も、就職・結婚・出産を経て7年住んだ大阪から4月に東京へ転勤し、育児休暇も終えて育児と仕事の両立に慌ただしい毎日を送っています。そんな合間に四高の思い出をこうして振り返っていると、30歳の節目を迎え、誰か同窓会をそろそろ企画してくれないかと、本当の「再会」を他力本願に思ってみる今日この頃です。



思 出

西 山 民 子

（通信制課程）

世代の違うクラスメートと共に学んだ通信制は「生きた人生勉強」でした。先生に教えて頂き、クラスメートに助けられ、家族に支えられてもらった4年間に心から感謝しています。息子の高校受験に刺激され、平成7年に入学しました。大切な時期に何もできなく母親としては失格でしたが、それぞれの目的に向かってハードルを乗り越えていきました。若い生徒さんの中には不登校などで全日制高校をやむなく退学された方も多くみられびっくりしました。彼らと話すうちに「いじめの間

題」「自分の理想と違った学校」などの悩みがあったことを聞かせてくれましたが、その一方で退学の後悔と高卒の必要性を感じていました。私自身にも訴えられていた様でした。今、医療関係に勤務していますが、時代の変り変わりと共に、看護に要求される事柄も非常に高度なものとなっていますが、精神面及び肉体面の両方から看護していくために必要なのは、その身になって考えることだと思っています。通信で良き友達に恵まれ楽しく学び卒業でき、何か一つのことをやり遂げた達

成感を得られたことが自信となっています。毎年、親睦旅行が行われています。参加させて頂き、記憶の片隅にしまい込まれていた同窓生の顔や、忘れてしまっていた思い出が次々と湧き上がり、時間があつという間に過ぎて行きます。同窓会の開催にあたり、運営の役員、幹事の方々にお礼申し上げます。



学園だより



希望の門

放送部3年 河島 佳史

私たち放送部は、四日市高校に伝わる応援歌である「希望の門」についてのテレビドキュメント番組を制作しました。

希望の門は長い間生徒たちに歌われておらず、卒業生の方々に惜しまれていましたが、水谷学校長のもとで昨年から生徒たちに教えられることになりました。そこで、希望の門の歴史や伝統、そして再び歌われることになった経緯について調べ、一つの番組を作ったのです。何十年もの間脈々と受け継がれてきた希望の門には、たくさんの思いが込められていて、制作していくうちに胸が熱くなりました。

多くの方々のインタビューをもとにして、部員たちで一生懸命作ったドキュメント番組「希望の門」は、NHK杯全国高校放送コンテスト三重県大会で入賞し、全国大会へ進出するという快挙を達成しました。制作にあたっては、多くの卒業生の方や先生方に協力していただきました。校舎のすぐ近くにある同窓会館を訪れ、貴重な資料を見させていただきました。また、昨年四日市都ホテルで行われた「桜菜会」では、同窓生の方々が希望の門を歌っているところを取材させていただきました。

たくさんの方のおかげで、番組を完成することができました。この場をお借りして、多くの情報を提供していただいた鈴木田先生、並びにご協力いただいたすべての先生方にお礼申し上げます。

今回の取材を通して大切なことを知ることができました。生徒たちが再び希望の門を歌う機会を作っていただいた校長先生には、仲間たちで手を取り合い希望を持ち続けることがいかに大切かを教わりました。卒業生の方々の、母校四日市高校やその生徒にかける期待や願いに触れることができました。希望の門には、「いざとも行かん」という歌詞があります。卒業生の皆様の応援を背に、この歌詞のように生徒たちで協力し合って高い望みを目指したと思います。また、もうすぐ卒業して同窓生となる三年生として、今後も四日市高校で希望の門が歌い継がれ、希望を胸に後輩たちが高校生活を過ごしてくれることを願ってやみません。

今回、ドキュメント番組「希望の門」を制作して、多くのことを学び、大切な思いを映像として形にできたのではないかと思います。

大切なもの

水泳部1年 川瀬 裕斗

僕は昨年夏三重県、そしてこの四日市高校を代表して国民体育大会という大舞台を経験することができました。その中で学ぶこともたくさんありました。本番当日に自分を最高の状態にもっていくことの難しさ、刺激し合いお互いを高め合うことのできる仲間、そしてそのチームワーク、また個々を支えてくれる人の大切さ。

今、思い返してみるとあの大会で結果を残した選手ほど、周りの人とのコミュニケーションを大切にし、たくさんの人の協力を最大限に生かして行動していたように思えます。

自分が納得のいく泳ぎが出来るまでアップ、ダウンを問わずつきつめ、信念をまげずに練習をしていました。大舞台で結果を残すことができる選手との思考の違いに、自分を見つめ直さなければならないことが数多くあると痛感した期間になったと思います。

そして、今僕は高校生としては最高の大会であるインターハイに出て結果を残すために昨夏の教訓をいかして練習を重ねています。この年末年始のほとんどを合宿に費やしました。そこでコーチに、インターハイに出るのではなく、そこで勝つことを常に考えて練習しなさい。と言われさらに士気が高まりました。といってもすべて、思い通りにいくわけがありません。何度も心が折れそうになりました。でも、目標がぶれることはありませんでした。その成果があったのか先日の大会では、前半と後半のタイム差がこれまでの自分では考えられないほど小さくなりました。これからも毎試合なにかすこしでも成長し続けて、ここぞというときに最大限の力が発揮できる選手になります。

また、メンタル面の強化も不可欠だと感じました。どんな時でも屈しない精神。自分にそんな立派なものはありませんが、いつでも味方でいてくれる大切な人ならいます。一人ではなしえなくても、協力すれば出来る。これこそ強い精神を生み出すカギなのではないかと思います。

これからも日々成長し、感謝の気持ちを持って最高のパフォーマンスで恩返しができるよう精進していきたいと思っています。



互いに高め合うことの 素晴らしさ

3年1組 尾崎 侑平

私は、四日市高校で、丁寧に質問に答えてくださった先生方、私を支えてくれた友達のおかげで、学校へ行くことが楽しく感じられ、充実した生活を過ごすことができました。そして、高校での三年間を通じて、互いに高め合うことの素晴らしさ、大切さを学びました。

私は、入学当初、学校の授業

を理解するために、ただひたすらに勉強をすれば良いと考えていました。しかし、一人で勉強をしていてもやる気は出ず、勉強に集中できない日が続くこともありました。そんな時、勉強が辛くても必死に努力している友達の姿を目にし、自分ももっと努力しなければならぬと思うようになりました。友達も、私が努力している姿を見て、辛い時でも、乗り越えることができたと言ってくれました。先生方はいつも「勉強は個人戦ではなく、団体戦だ」とおっしゃっています。まさにその通りだと思います。

特に、三年生になり受験勉強が始まると、この高め合うことの大切さを強く感じました。友達と同じ問題を解き、理解できない部分を教え合ったり、また、成績不振の際に励まし合ったり、相談し合ったりしたこと、良い刺激を受け、モチベーションの向上にもつながりました。ところで、私たちの在学中に、長い間歌われていなかった「希望の門」という応援歌が復活しました。東海大会や全国大会へ

出場する部活動や個人の壮行会で歌うようになりました。その歌の一節に次のようなフレーズがあります。「いざとも行かん希望の門我等が母校四日市あ四日市」。この歌のように母校、仲間との絆を忘れることなく、希望を胸に、これからの自分の生き方に誇りを持てるよう努めたいと思います。

編集後記

秋から準備を始めた会報作りは、最終段階を迎え、同じ学び舎で学んだということから生まれる信頼と連帯感や学生時代の友との交流がその礎となっていると実感し、大変さとは裏腹に、得るものの大きさを実感する毎日です。

大先輩方の底力を手書き原稿から垣間見させて頂いたり、又、デジタル原稿の利便性も味わったり。編集作業は、まさに温故知新の言葉通りです。

(小林)

同窓生交歓



関西四高会 H23.10.30 (大阪弥生会館)



通信制バス親睦旅行 H24.6.3 (信州)



富中40回生クラス会 H24.11.2 (四日市市呼月)



富中第41回会 H24.6.2 (四日市都ホテル)



四高38年度3年5組クラス会 H24.11.10 (たまゆら)



富中三八会
H24.9.8
(たまゆら四日市)



北海道
富中四高会
H24.3.20
(札幌市内)



第12回四高桜菜会総会 H24.5.15 (四日市都ホテル)



四高51年度卒同窓会 H24.8.11 (四日市都ホテル)



星稜会(四高卓球部OB会) H24.4.7 (うお富)